

第3次森町総合開発振興計画

第1回審議会

令和8（2026）年8月18日（火） 15時00分～
森町防災センター 研修ホール（森町消防本部）

1 森町総合開発振興計画審議会について

第3次森町総合開発振興計画（以降、第3次計画と呼称）は、令和8・9年度の2か年で策定します。

審議会の役割

- 町長の諮問に応じ、計画の方向性や内容を審議
- 町民や各分野の立場から意見を提示
- 最終的に計画案を取りまとめ、町長へ答申

審議いただく主な内容

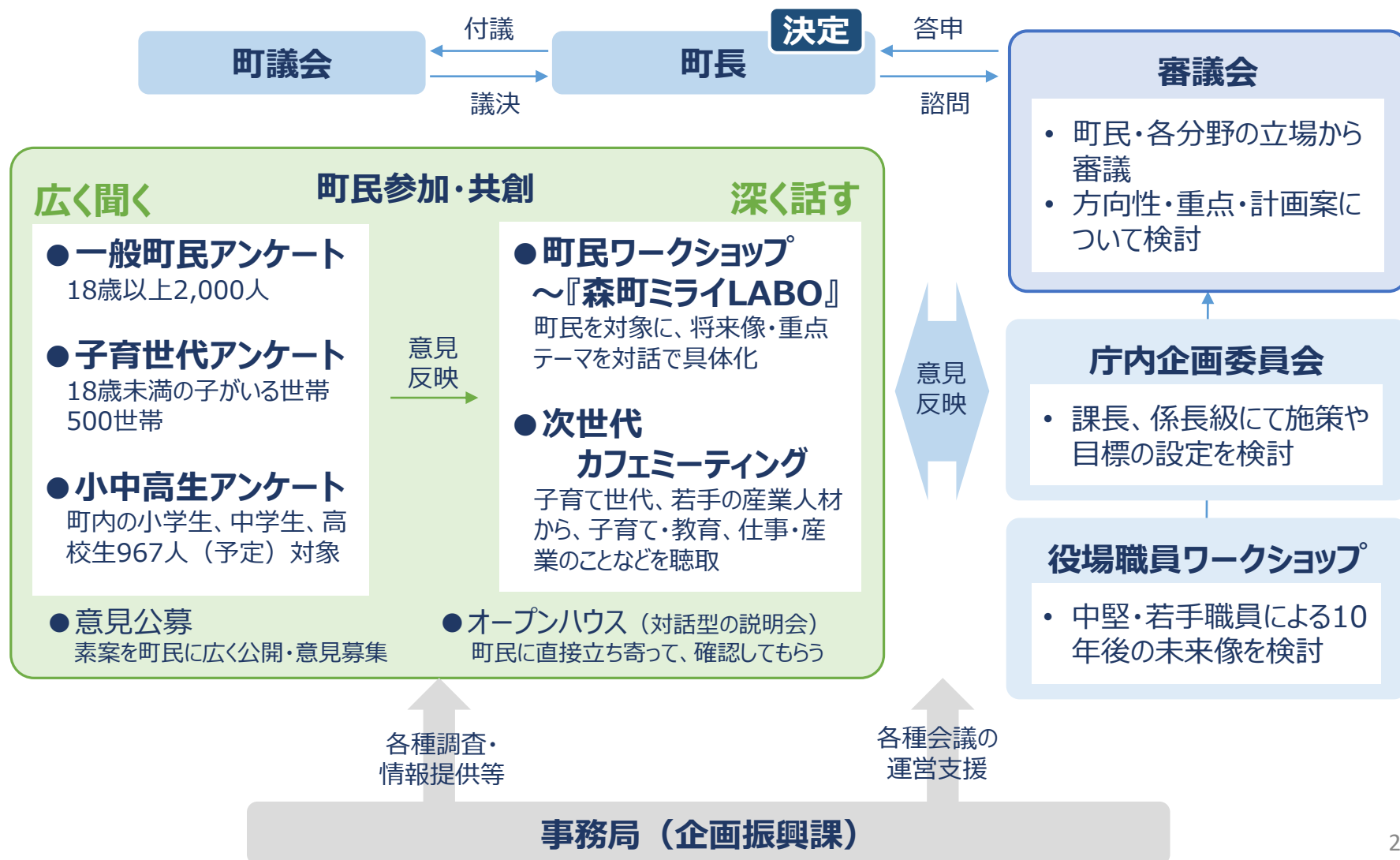
- 10年後の森町の将来像
- 重点的に取り組むテーマ・施策
- 人口減少や財政制約を踏まえた優先順位
- 計画の実行・評価の仕組み など

● 審議会の開催予定（現時点）

令和8年度	第1回	策定方針・スケジュール・アンケート調査
	第2回	アンケート結果・人口推計・基本構想骨子
	第3回	基本構想原案
	第4回	基本計画骨子・施策体系
令和9年度	第5回	基本計画原案・成果指標
	第6回	総合計画・人口ビジョン原案
	第7回	意見公募前素案
	第8回	最終案・答申

●第3次計画の策定・検討体制

町民意見と行政課題を共有・検討し、町長の判断と町議会の議決を経て計画を策定します。



2 第3次森町総合開発振興計画の策定について

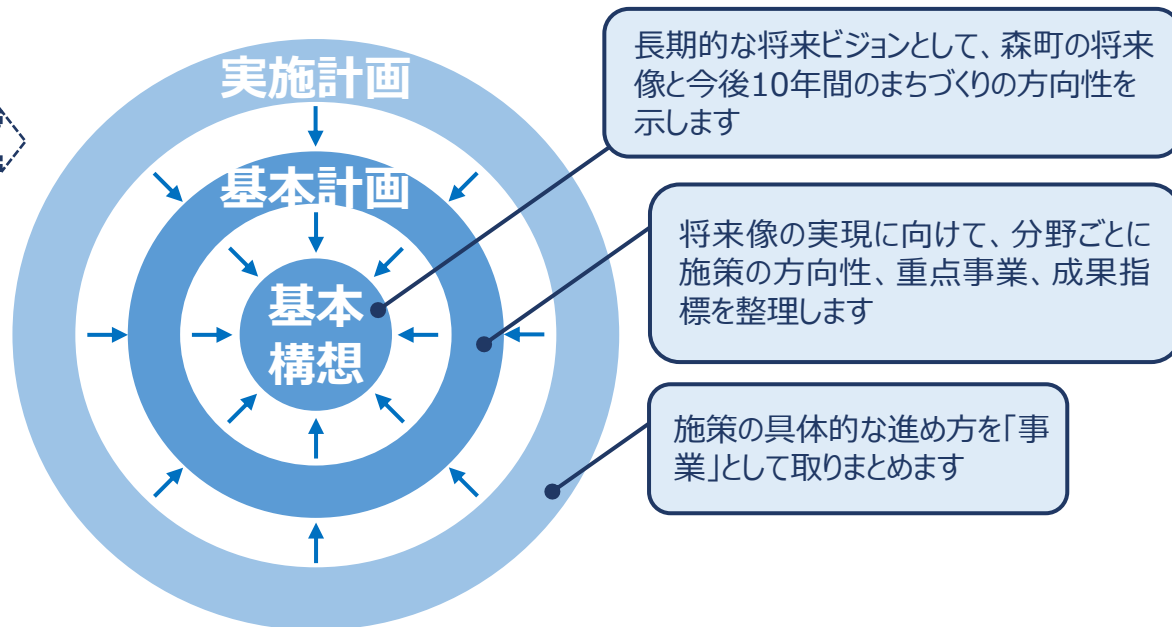
● 総合開発振興計画の位置付け、構成

森町が目指す将来の姿と、その実現に向けた町政の基本的な方向性を示す、町の最上位計画です。
基本構想（10年）と基本計画（10年）の二層構成。実施計画は毎年度見直します。

森町の最上位計画

人口減少・少子高齢化
社会情勢の変化
国の動き など

総合戦略
各分野の計画



計画期間（年度）

2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)
基本構想（10年）									
前期基本計画（5年）					後期基本計画（5年）				

将来像

みんなで創ろう海と緑の理想郷 もりまち

くらしのふれあいはつらつとした爽やかなまち

6つのまちづくりの方針

1

豊かな心と健やかな
体を育む生涯学習の
まちづくり

2

健康と支え合いを
大切にしたあたたかな
まちづくり

3

産業の力を高め
魅力を伝えるまちづくり

4

自然の豊かさを
感じながら生活できる
まちづくり

5

便利で安全・安心な
まちづくり

6

みんなで考え創っていく
まちづくり

各項目

- 幼児教育
- 学校教育
- 青少年育成
- 生涯学習
- 生涯スポーツ
- 地域文化
- 地域間交流・国際化

- 保健・医療
- 地域福祉
- 子育て支援
- 高齢者福祉
- 障がい者福祉
- 低所得者福祉、勤労者福祉
- 社会保険

- 農林業
- 水産業
- 商工業
- 観光産業
- 企業誘致・起業、雇用・就労

- 環境保全
- 地域新エネルギー
- 景観
- 住宅、宅地
- 公園・広場・緑地
- 環境衛生
- 上・下水道

- 土地利用
- 道路・交通・港湾
- 地域情報・通信網
- 防災・消防・救急
- 交通安全・防犯
- 消費者対策

- コミュニティ、住民活動
- 男女共同参画・人権尊重
- 広報・広聴、住民参画
- 自治体経営

●第3次計画策定の基本的な考え方

人口減少や財政状況、社会環境の変化を踏まえ、次の3つの考え方を大切にしながら計画づくりを進めます。

縮充※の考え 方を取り入れ た計画づくり

暮らしに必要な機能を大切にしながら、持続可能なあり方を考える

- 人口や財源、担い手の変化を見据えながら、暮らしに必要な機能を将来にわたって維持する方法を検討します。
- 単に規模を小さくするのではなく、限られた資源を有効に活かし、暮らしの質を保ち、高めることを目指します。

町民とともに 考え、つくる 計画づくり

幅広く町民の声を聞き、森町の未来をともに考える

- アンケートやワークショップを通じて、幅広い世代・立場の意見を把握します。
- 町民が感じている課題や、大切にしたい森町の魅力、今後期待する取組を整理します。
- 検討状況を共有しながら、町民と行政と一緒に森町の未来を考える機会とします。

進捗と成果を 確認できる 計画づくり

目指す姿と進み具合を分かりやすくし、着実な取組につなげる

- 計画を通じて目指す変化を、分かりやすく整理します。
- 計画全体の成果を確認するKGI※と、各施策の進捗や成果を測るKPI※を設定します。
- 定期的に状況を確認し、必要に応じて施策や事業の見直しにつなげます。

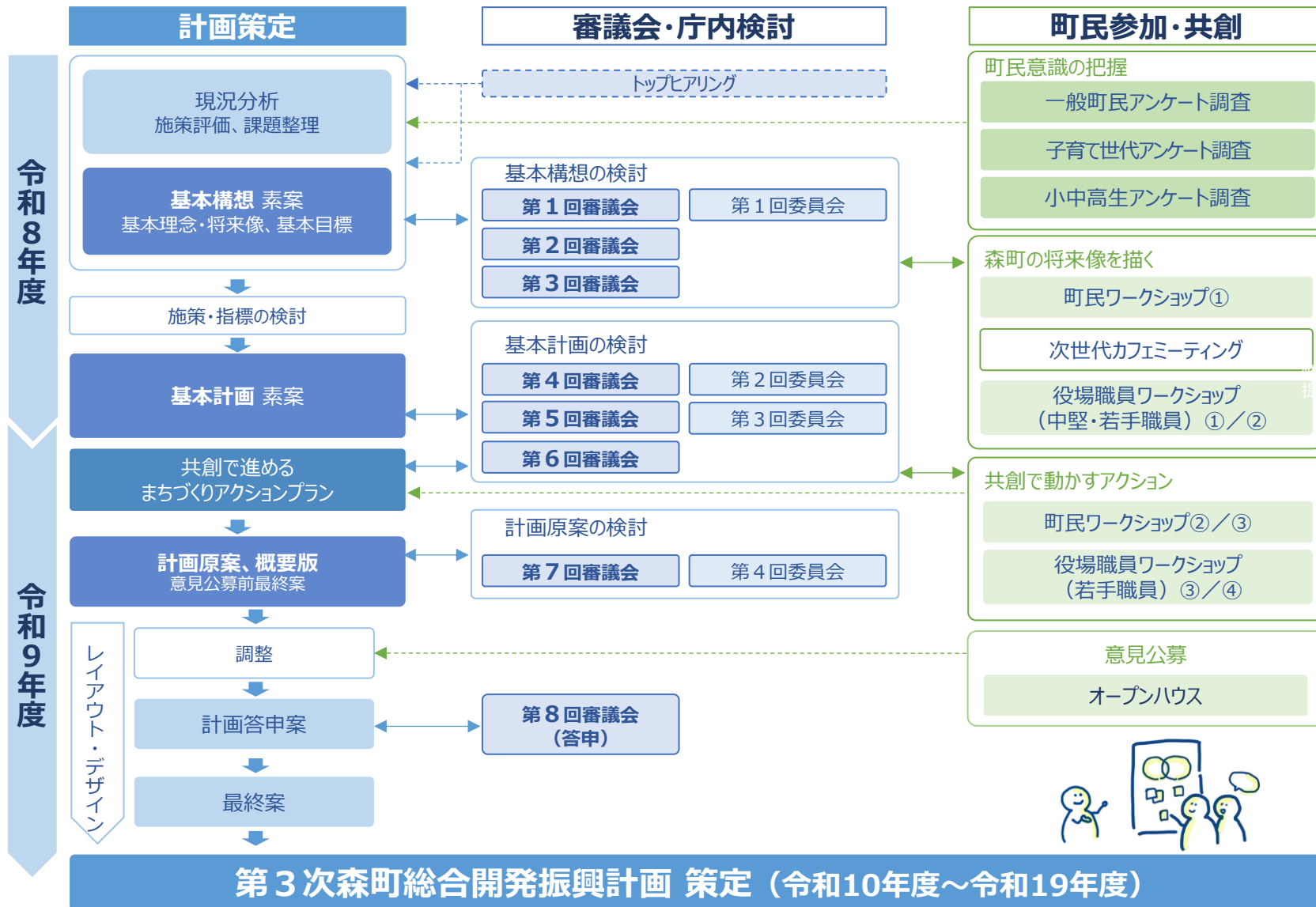
※縮充（しゅくじゅう）：縮小と充実からなる造語。人口減少や税収減によって社会や地域の規模が縮小していくことを悲観するのではなく、「縮むこと（縮小）」を受け入れた上で、「生活の豊かさや地域の営み（充実）」をどう維持・向上させていくかを模索する考え方。

※KGI（Key Goal Indicatorの略称）：計画全体で目指す最終的な成果を示す指標。例）目標人口など。

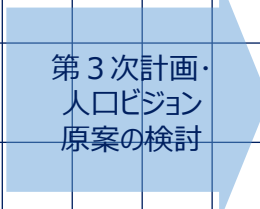
※KPI（Key Performance Indicatorの略称）：「KGIの実現に向けた各施策の進み具合や成果を示す指標。例）地域公共交通の利用者数など。

3 策定スケジュールについて（予定）

● 策定に向けた取組



●策定スケジュール（予定）

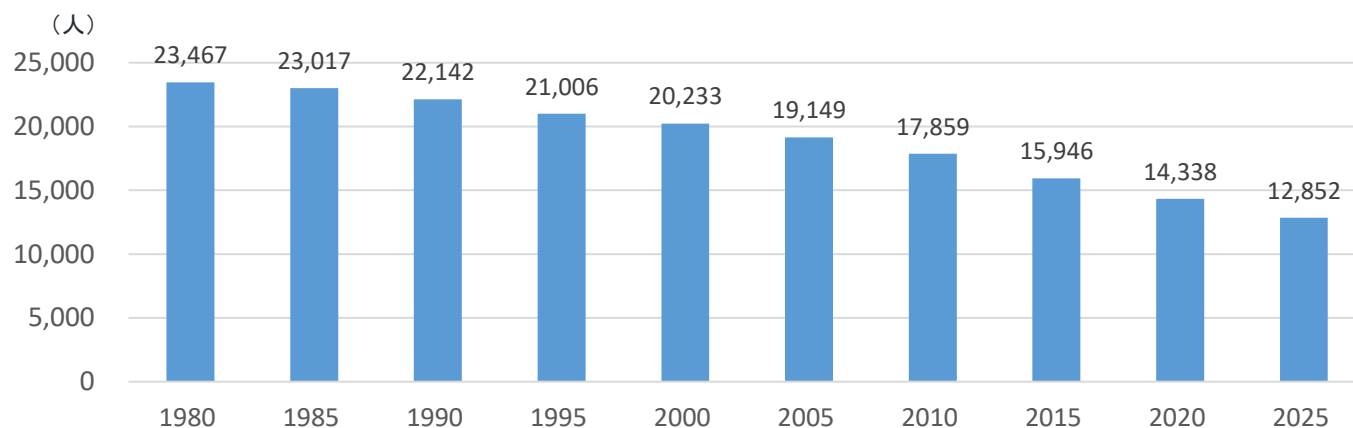
取組	令和 8（2026）年度										令和 9（2027）年度													
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
現況分析																								
アンケート																								
ワークショップ等				職員 ①	町民 ①	職員 ②	カフェミーティング ③			町民 ②	職員 ③	職員 ④	町民 ③											
庁内企画委員会			①			②				③		④												
審議会		①			②		③		④		⑤	⑥		⑦			⑧							
基本構想													 意見公募による意見反映 計画案の完成											
基本計画																								
人口ビジョン																								
意見公募																								

4 森町の現況・特性について

●人口の動向

総人口は1980年をピークに減少が続き、2025年で12,852人に。高齢化も進んでいます。

■総人口の推移(国勢調査ベース)ピーク時から約1万人超減少



- 総人口 **12,852**人(令和7年国勢調査速報値)
- 世帯数 **7,416**世帯(令和7年国勢調査速報値)
- 高齢化率 **38.6**%(令和2年国勢調査)

面積: 368.79km

人口密度: 34.8人/km²

合併: 2005年(旧森町+砂原町)

●地域の特性

農業・漁業・水産加工業を基幹とし、駒ヶ岳と内浦湾に育まれた自然が暮らしを支えています。

1. 立地と自然

- 渡島半島の中央部、**内浦湾（噴火湾）**に面する
- 町東部に**駒ヶ岳（1,131m）**を望む
- 北海道でも温暖で積雪も少ない気候（年平均気温 8.2℃）
- 北海道内で唯一「まち」と読む町

2. 基幹産業

- **農業／漁業（水産業）／水産加工業**が基幹
- ホタテ、イカ、スケソウダラなど噴火湾の海の恵み
- 郷土料理「いかめし」など特産・ブランドの蓄積
- 観光・体験、道の駅など地域資源の広がり

3. 地域の成り立ち

- 2005年、旧森町と砂原町が合併して、現在の森町の町域に
- 噴火湾沿岸から駒ヶ岳周辺まで、自然環境や産業、暮らしの特徴が広がる
- 地域ごとの特性を活かしながら、町全体としての一体的なまちづくりを進行

4. 暮らし・交通

- 国道5号・函館本線が沿岸部を縦貫
- 函館市・北斗市・七飯町など周辺市町との往来
- 道の駅、温泉、公園など生活の楽しみが点在
- 広域連携・生活圏の視点も重要に

5 第3次計画に向けた主な検討視点

人口減少・高齢化が進む一方、森町には豊かな自然や産業基盤、多様な地域特性があります。これらの現状と特性を踏まえると、今後の計画づくりでは、次のような視点が重要になると考えられます。

1. 限られた財源の効果的な配分

人口減少と施設更新を踏まえながら、財源配分と優先順位をどう考えるか。「充実させたいこと」と「見直しても良いこと」の両方を町民と共有する。

2. 暮らしの機能の維持・再編

医療・福祉、交通、買い物、公共施設などの暮らしを支える機能を、どこまでどう維持するか。持続可能な形へ再編するか。

3. 産業・雇用の維持と創出

一次産業・製造業を活かしながら、観光や担い手・後継者・新しい働き方をどう広げるか。町外からの歳入をどう取り込むか。

4. 若者の定着と子育て環境の充実

住み続けたい・戻りたい・子育てしたいと思える環境をどうつくるか。教育・住まい・仕事・関わり方を含めて考える。

共通する視点

町民・事業者・行政が協力し合う「**共創のまちづくり**」

アンケート調査の実施について

6 アンケート調査の目的および考え方について

世代ごとに聞き方を変え、暮らしの実感・将来像・定住や参加の意向を、幅広く把握します。
世代ごとに5種類の調査票を作成して実施します。

設計の基本的な考え方

① 前回比較の確保

住みよさ・定住・満足度／重要度・将来像・参加意向は前回と同一文言

② 選択と集中の反映

人口減少・財政制約を踏まえ、優先順位・見直しを新規／強化

③ 町民の参画への接続

町への意見に加えて、町民・地域・民間が抱える役割。参加意向を把握

調査区分	対象	抽出・実施方法		回答方法	主に把握する内容
町民	18歳以上の町民	無作為抽出 2,000人		Web基本／紙も可	暮らしの評価、施策の満足度・重要度、定住意向、将来像、重点分野、参加意向
子育て世代	18歳未満の子がいる世帯	無作為抽出 500世帯		Web基本／紙も可	子育て環境、教育・医療、働き方、住まい、定住意向
小学生	町内小学校 4～6年生	学校を通じて実施	967人 (予定)	学校端末／Web	好きなところ、将来の森町像、自分にできること
中学生	町内中学校 全学年	学校を通じて実施		学校端末／Web	森町への愛着、進路、定住・Uターン条件、地域活動への関心
高校生世代	住民票のある 15～17歳全員	対象者へ案内送付		Web基本／紙も可	進学・就職意向、Uターン意向、森町との関わり方

●追加・強化する主な設問テーマの考え方

以下は、今回の計画策定で問いたい7項目です。

①人口減少・ 少子高齢化	今後10年間のまちづくりの前提条件。町民の受け止めと、地域で見えている変化を把握。	町民	子育て	中学生	高校生
②財政制約・ 選択と集中	限られた財源の中で優先順位を明確にする。負担とサービスのバランスを町民と共有。	町民			
③公共施設・ 地域サービス	施設・サービスの維持・再編の考え方や、統合・複合化・広域連携について町民の考えを把握。	町民	子育て		
④子育て・ 教育環境	子育て世代の定住・移住に直結する暮らしの条件を、当事者から詳しく把握		子育て	小学生	中学生 高校生
⑤若者の定住・ Uターン	将来人口や地域の担い手確保に関わる、進路・戻ってきたい条件を当事者に聞く。			中学生	高校生
⑥産業・雇用・ 地域資源	町内で暮らし続けるための仕事、町外からの収入（ふるさと納税・観光等）につながる視点。	町民		中学生	高校生
⑦町民参加・ 共創	「行政への要望」だけでなく、町民・地域・民間が担える役割、参加してみたい活動を全調査で把握。策定後、町民と行政が動くための土台となる。	町民	子育て	小学生	中学生 高校生

7 アンケート調査：設問構成の全体像

前回と比べられる設問を土台に、第3次計画で重点と考えられる設問を新規設定します。

調査区分	前回から継続（前回比較）	新規設定の項目	計画への反映先
町民	住みよさ、満足度・重要度、定住意向、将来像	選択と集中、財政制約、公共施設、参加意向	基本構想・基本計画、重点施策
子育て世代	（新規）	子育て環境、教育、医療、住まい、定住意向	子育て支援、定住促進
小学生	好きなところ、将来の森町像	守りたいもの、自分にできること	将来像、概要版
中学生	住みよさ、定住意向、将来像、地域活動	戻ってきたい条件、進路、地域との関わり	若者施策、人口ビジョン
高校生世代	定住意向、将来像	進学・就職、Uターン、関係人口	人口ビジョン、若者定住

● 共通・準共通で把握する設問

世代をまたいで比較できる設問を用意し、将来像・定住・参加意向は5調査横断で分析します。

設問テーマ	町民	子育て世代	小学生	中学生	高校生
森町の住みよさ	●	●	—	●	●
森町への愛着	—	—	●	●	●
将来の森町像（全調査共通）	●	●	●	●	●
定住・Uターン意向	●	●	—	●	●
重点的に取り組むべきこと	●	●	△	●	●
まちづくり参加意向	●	●	△	●	●
自由記述	●	●	●	●	●

意見交換

●これからの森町で大切にしたいこと

- ・人口減少や財政制約を踏まえ、今後のまちづくりで充実させたいこと
- ・10年後の森町の望ましい姿（産業・暮らし・子育て・教育など） など

●アンケートの調査票の内容、町民に聞いておくべきこと

- ・町民に特に聞いておくべき内容
- ・森町の将来を考えるために、追加すべき項目 など